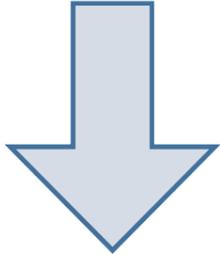


熱中症になったら 熱中症EAP (Emergency Action Plan)

熱中症を疑う症状

- 重症度Ⅰ度** *手足のしびれ *めまい、立ちくらみ
*筋肉のこむら返り(痛み) *気分が悪い、ボーとする
- 重症度Ⅱ度** *頭痛 *吐き気・嘔吐 *倦怠感 *意識が普通でない
- 重症度Ⅲ度** *意識消失 *けいれん *呼びかけに対して反応がおかしい
*まっすぐに歩けない・走れない

チェック✓



意識障害の有無

あり

救急隊を要請

- *意識消失
- *意識がもうろうとしている
- *応答が鈍い
- *言動が不自然等、
少しでも意識がおかしい場合。

チェック✓

なし

- ☆連絡・連携先
 - *責任者 ()
 - *スタッフ ()
- ☆役割分担
 - *AED ()
 - *他のスタッフへの応援 ()
 - *記録(気温・湿度・時間等) ()
 - *救急隊の誘導 ()

涼しい場所への避難

チェック✓

自力で水分摂取可能か



涼しい場所への避難 脱衣と冷却

衣服をゆるめ、
氷・アイスパック・
扇風機等で冷却

できる

水分・塩分の補給

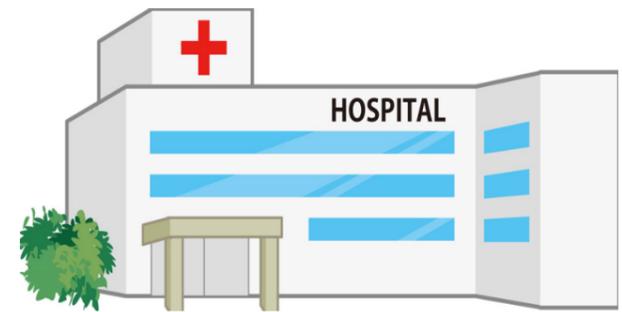
できない

チェック✓

症状改善の有無

改善しない

医療機関へ搬送



改善

経過観察

◎ポイント

- 連絡先の電話番号を記したラミネート加工の対応フロー図を作成し、各活動場所に常設することにより、熱中症発生時の的確で迅速な対応に役立ちます。
- 携帯電話、スマートフォンによる連絡履歴は、救急隊の要請時間など事故対応時の客観的記録となります。
※緊急時の対応を考慮し、可能であれば、指導者は活動場所にて携帯電話・スマートフォンを携帯しておくことにより、より迅速な救急隊の要請と正確な時間の記録保存等に役立ちます。

